

中島 勲 議員（代表質問）

1 市政運営について

- (1) 自主財源が40%台という状況下で政策を進めていく上で、国・県との関係がより重要となると考えるが市長のスタンスをお聞きしたい。
- (2) 政策の立案などを含め、これからも職員の力量がますます問われると考えるが、教育も含め体制は万全か。
- (3) 地域おこし協力隊員の募集や、当市に関心を寄せていただいている人材を積極的に活用する考えはないか。
- (4) 現在、教育委員会の所管である子ども課は、子どものライフスタイルに合わせた政策実現からみて、産業民生部に移管すべきと考えるが当局の見解は。

2 第4次総合計画における短期計画について

- (1) 財政の見通しは、計画どおりに推移しているか。
- (2) 主要な事業の達成度はどうか。また今後の見通しは。
- (3) 来年が短期の最終年度になるが、課題はあるか。

3 都市計画マスタープランについて

- (1) 計画の達成度についてどのような認識か。
- (2) 問題点、課題があったとすれば何か。またそれを次期の計画にどのように生かしていくのか。
- (3) 次期プランの目標と戦略は何か。
 - ア 永代地上権の問題をどうするのか。
 - イ 交通体系の中で新駅設置を考えるのか。またJR滑川駅の駅舎とその土地の利活用をどのように考えているのか。

4 地域資源の活用について

- (1) 立山黒部ジオパークが「日本ジオパーク」として認定されたが
ア 教育学習・保護保全・観光にどう反映させていくのか。
イ 9市町村で構成されている「立山黒部ジオパーク支援自治体会議」は、今後どのような運営・活動をしていくのか。
- (2) 本市の観光を考える中で、ホタルイカ、海洋深層水を核とした観光の推進を含め4つの柱が提示されたが、具体的にどう展開していくのか。

5 教育委員会制度の見直しについて

- (1) 有効な法改正だと考えている教育長は2割程度との調査があるが、当市の見解は。
- (2) 首長の権限強化につながりかねないといわれている「総合教育会議」のメンバー構成と検討すべき事項はどのようなものが考えられるか。
- (3) 教育委員長を教育長が兼ねるという制度上の変更により、教育行政を進める中で大きく変化する状況は考えられるか。

高木 悦子 議員（代表質問）

1 滑川市の将来を担うための教育に対する取り組みを問う

- (1) 平成 27 年 4 月から、教育委員会制度が 58 年ぶりに改革される。従来の教育長と教育委員長の並存から新「教育長」への一本化が図られ、首長を交えた「総合教育会議」が新たに設置されるなどの改革があるが、滑川市の教育委員会はどのように変わるのか、逆に変わらないものは何なのか。市長、並びに教育長の考えを問う。
- (2) 新「教育委員会」には、教育行政の責任者である新「教育長」の執行状況をチェックする機関としての責務がある。教育に対する高い見識はもちろん、保護者や地域の意向の反映に努めることも新「教育委員会」に課されるが、人選についてどう考えているか。
- (3) 会議の透明化のため、総合教育会議は原則公開、教育委員会の会議についても議事録の原則公表が求められているが、原則に従うか。
- (4) 教育基本法第 17 条に規定する「教育振興基本計画」を参酌した教育に対する「大綱（教育の振興のための施策に関する基本的な計画）」の策定についての基本的な考え方と、策定までのスケジュールは。
- (5) 教科書採択についても、前年踏襲ではなく、滑川市教育委員会としてどのような教科書を採択するかを考えるべきであり、採択地区の見直しを検討するつもりはないか。
- (6) 今回の教育委員会制度改革のきっかけは、大津市のいじめ問題とされている。全国の都道府県や市町村で「いじめ防止条例」制定が進んでいるが、滑川市として条例制定の考えは無いか。
- (7) 深刻化するいじめ問題の本質的解決に向けて「道德教育の充実」が求められているが、滑川市の道德教育の現状はどうか。例えば「私たちの道德」の活用状況はどうなっているか。

2 総合評価方式による入札制度の見直しを

- ・ 東日本大震災以降、安倍政権の国土強靱化への政策転換などを受けて、公共事業の入札において応札者不在や不落随契など、応札者の確保が新たな問題となっている。そんな中においても、工事の品質を確保することが求められ、更には大規模災害発生時の復旧工事の担い手や、冬季の除雪業者の確保など、市民生活の安全・安心を担保する上でも地元の土木・建設事業者の存在は重要と考える。
 - ア 滑川市の一般競争入札における総合評価方式の採用実績は。
 - イ 富山県では原則として「全ての一般競争入札」での総合評価方式の実施を始めたが、滑川市においても同様の見直しを行わないか。

3 都市計画マスタープランの策定について

- ・ 都市計画マスタープランは、10年後20年後の滑川市の姿のランドデザインを描くものであり、人口減少社会に突入する中で流出する人口をいかに抑えていくかを考えると、若い世代の意見聴取が必須と考える。
 - ア 市PTA連合会、商工会議所青年部、滑川青年会議所など、今滑川市に住み、20年後も現役の世代の意見を聞くべきではないか。
 - イ 人口減少の一番の原因は、大学進学など高等教育で県外へ流出した世代が戻ってこないことにある。滑川市内在住の高校生を対象に、どのような滑川市であれば将来も滑川市で暮らしていこうと考えるかを聞くべきではないか。

古沢 利之 議員（代表質問）

1 保育新制度について（議案第 48 号 に関して）

- ・ 実施までの時間が少ないのに、複雑なしくみではないか。
 - ア 保育の必要性の認定にあたっては、柔軟な対応をすべきだ（保育の必要性の事由、保育必要量）。
 - イ 保護者への説明会等はどうか。
 - ウ 利用者負担の見通しはどうか。

2 放課後児童健全育成事業について

- (1) 来年度から6年生まで対応することになるが、実施に向けた課題と解決の見通しはどうか（支援員、場所の確保など）。
- (2) 現指導員の処遇改善が必要ではないか。

3 学校図書館について

- ・ 学校図書館法の改正を受け止め、司書を増員し全校専任化を進めよ。専任と兼任で教育効果に差はないという認識か。

4 米価下落について

- (1) 米価下落をどう受け止めているか。直接支払い交付金の減額とダブルパンチ。生産者、組織への影響は極めて大きい。
- (2) 地域経済への影響をどう見るか。

水野 達夫 議員（代表質問）

1 市民の安全・安心の確保について

- (1) 災害発生時の初期対応は万全か。例えば、広島市の土砂災害のように深夜の時間帯等に発生した場合、避難勧告・避難指示等を市民の方々へどのように情報伝達するのか。
- (2) 先の6月定例会で災害時の情報伝達手段として、SNSの活用を提案したが、その検討状況はどうか。また、災害が発生した際の指定避難所となる43カ所に公衆無線LAN環境を順次整備できないか。
- (3) 平成23年6月定例会でも提案した避難誘導看板の設置について、現在、総務省消防庁が作成を進めている実際の避難場所や避難経路に提示する絵文字（ピクトグラム）を活用した上で、ゴミステーションや電柱等への設置を改めて検討できないか。
- (4) 沖田川放水路完成後もある程度の浸水被害が想定される沖田川上流部において、富山市婦中地域で実施されている河川や水路への雨水の流入量を抑制する水田貯留の取り組みができないか。
- (5) 空石積み護岸完成後約50年が経過した都市下水路沖田川幹線において、昨年度実施された調査結果はどうであったのか。また、今後の改修はどう進めるのか。

2 新図書館構想について

- (1) 新図書館構想の現在の進捗状況はどうか。また、9月1日に開催された市立図書館基本構想策定委員会のメンバー構成並びに主な意見の内容はどうか。
- (2) 例えば、市民の方々に役立つ魅力ある図書館とするために、「課題解決型」機能の充実を図ったり、滑川ならではの付加価値を高めていくための創意工夫が必要ではないか。
- (3) 魅力ある図書館づくりを目指し、賑わい空間となることは大歓迎であるが、そこに至るまでの課題の一つが駐車場問題だと思われる。例えば東地区公民館の機能を現在耐震工事中の青志会館に移転させ、駐車場敷

地を増やすことはできないか。

3 (株)ウェーブ滑川の経営状況について

- (1) 今定例会において、平成 25 年度事業の決算に関する報告がなされている。(株)ウェーブ滑川のここ数年の経営状況に関する市の見解はどうか。
- (2) ここ数年の部門別収支表によれば、タラソピアの収支状況が悪化しているように思われる。今後、ポンプ等の更新費用や建物自体の塩害による修繕等に多額の支出が見込まれる。タラソピアの今後のあり方を検討すべき時期ではないか。

4 田中小学校の今後の改修計画について

- (1) 田中小学校の新校舎完成によって、グラウンド側から出入りできるトイレがなくなった。地区の行事(運動会)やスポーツ少年団が、グラウンドを利用する際のトイレ利用は今後どうなるのか。
- (2) 田中小学校旧木造校舎を記念館として保存すると決まったこれまでの経緯はどうか。地域の方々の意見はどのように反映されて決定したのか。また、学校施設から除外される旧木造校舎は、今後どの部署で管理運営していくのか。

中川 勲 議員（一般質問）

1 人口減少問題について

- (1) 本年5月、日本創成会議が2040年までの人口推計を発表し896の自治体が消滅する可能性を指摘しているが、滑川市としてどう思われるか。
- (2) 推計によれば滑川市は、7,598人減少するとあり、その原因の一つに若い女性の減少によるものとのことだが、今後どう対応されるのか。
- (3) 人口減少により公共施設の維持管理にも大きな影響があると思う。また空き家の増加も考えられるが、それらの対応はされているのか。
- (4) これまでに幾つかの自治体で人口の減少を止め増加させている実態が報告されているが、滑川市において魅力を発信し住んでもらう方策は。
- (5) 若者が滑川を出ないで住み、また帰って来てもらい、他市から移り住んでもらうにはどのような対策を講ずるのか。

2 防災対策について

- (1) 豪雨対策について
 - ア 7月19日の豪雨において、魚津市では大きな被害が発生したが、滑川市での被害はどうであったか。
 - イ 魚津市の被害を視察されたと思うが、今後滑川市として課題と対策は。
 - ウ 8月20日、広島市で局地的豪雨により多くの場所で土砂崩れが起き大変な被害があり、土砂災害の恐ろしさを知らされたが、滑川市は大丈夫か。
 - エ 情報の伝達・共有・早期避難が最も重要だと言われているが、対策は大丈夫か。
 - オ 用水路、排水路は豪雨に対応できるのか。
- (2) 地震対策について
 - ア 8月26日政府が想定した津波の高さが3.6メートルと想定され、富山県が想定した7.1メートルとかなり違っていた。それぞれ想定した断層が違うこともあるが、滑川市としてどう対応されるのか。
 - イ 地震・津波の発生を止めることはできないが、震災による被害を減

らすことはできると言われ、自助・共助・公助の重要性が叫ばれ、平成 25 年から日本でもシェイクアウトが取り組まれているが、滑川市での対応はどうであるのか。

3 滑川市の水資源の保全について

(1) 陸砂利採取の現状について

ア 滑川市内において、現在何カ所で、何立方メートル認可を受けて砂利採取が行われているのか。

イ これまでに砂利採取された地域・数量は把握されているのか。

ウ 富山県が陸砂利採取に対し認可するが、滑川市の役目は何か。

エ 掘削後の埋戻しの土砂は指定されているのか。

オ 水道水源に影響はないのか。

(2) 富山県水源地域保全条例との関係について

ア 富山県水源地域保全条例とは何か。

イ 砂利採取に対する認可と水源地域保全条例との関係はどうなるのか。

角川 真人 議員（一般質問）

1 核兵器のない世界に向けて

- (1) 滑川市は昭和 63 年 6 月に非核平和都市宣言を行っている。この宣言についての認識を問う。
- (2) これまでこの宣言に基づいた行動は、どんなことが行われてきたのか。
- (3) 同じく宣言を行っている魚津市では、積極的に非核平和事業に取り組んでいる。滑川市でも、絵画・写真展などから活動してはどうだろうか。

2 地域包括ケアシステムに向けて

- (1) 団塊の世代が高齢化し、介護サービスの利用が増加していくと思われるが、介護や医療の現場では人不足が問題となっている。滑川市での今の状況はどうなっているのか。
- (2) 地域の介護を支えるためにも、介護現場の人員を増やすことは急務だと考えるが、事業所は経営が厳しいこともあって増やせていないのが現状であり、市として経営や人材育成などを支援していくことはできないか。

3 JR 滑川駅のバリアフリー化について

- ・ 駅内の跨線橋の階段が高くて大変だという声があるが、エレベーターの設置を要請できないか。

尾崎 照雄 議員（一般質問）

1 地域包括ケアシステムにおける認知症対策について

- (1) 本市における認知症患者について
- (2) 認知症サポーター、キャラバンメイトについて
- (3) 徘徊SOSネットワークなど住民のネットワークづくりについて
- (4) 認知症初期集中支援チームの導入計画について
- (5) 認知症地域支援推進員の配置について
- (6) 認知症の早期発見について
- (7) 在宅医療介護連携について
- (8) 地域包括支援センターの役割について

2 まちづくりについて

- ・ 市民との協働の推進における市職員の役割について

3 防災対策について

- ・ 路面下総点検による道路陥没、橋梁床版の劣化対策について

谷川 伸治 議員（一般質問）

1 高齢化社会に向けての介護予防について

- (1) 健康寿命の延伸につなげるために、スポーツ・健康の森公園内の長寿いきいき広場に介護予防の屋外健康増進遊具を設置し、このたび「いのみ公園」にも同種の遊具の設置が進められている。またタラソピアのダイナミックゾーンには各種ジャグジーや歩行浴を楽しむ施設がある。今後、介護予防としてこれらの施設の有効活用をどのように推進していくのか。
- (2) 高齢者の中には運転免許証を返納され、各施設を利用したくてもできない方々が増えてくると思われる。施設を利用していただく交通手段としてワンボックスカーでの送迎サービスや岡山県総社市が実施している“雪舟くん”（乗り合いカー）を検討し、各施設の利用者を増やすべきと考えるが。
- (3) 介護予防体操が開発されており、介護予防の屋外健康増進遊具の使用方法和合わせて、指導者の養成が必要と考えるが。
- (4) 介護予防には身体を動かし足腰を丈夫にすることも大切だが、脳を活性化させることで老化防止につながるといわれている。美術館・博物館での鑑賞、音楽会、合唱コンサートを楽しみ、目や耳から脳に刺激を与えることも健康寿命の延伸に結び付くと考えるが。
- (5) 高齢化社会に向けての介護予防には、既存のハードを有効利用するためにソフト面の充実を図るべきと考えるが。

2 安全安心ステーションの設置について

- ・ 6月定例会において、同会派の高木議員より西加積地域での交番設置について質問したが、県警本部の判断は新規の交番設置は難しいとの見解より市当局もその判断に従うのが適切と考えるとの答弁だった。自民クラブの会派では安全安心ステーション（別名：民間交番）の行政視察に行ってきた。海老名市は全額市の負担で運営、相模原市は行政と民間が共同して活動、町田市民間交番は町内会で第一線を退いた方々を中心

にしたボランティアで運営している。

ア 安全安心ステーションを防犯協会の事務所、青パトの拠点、地域コミュニティの機能を持った拠点づくりの施設として考えられないか。

イ 現在、滑川市では青パトは北加積地区で実施されているが、白・黒（パトカー）の車を購入し、滑川市全域をパトロールする青パトを実施すべきと考えるが。

竹原 正人 議員（一般質問）

1 子育て支援について

(1) 子どもインフルエンザ予防接種助成事業について

- ア 満1歳から中学生までの子どもたちが本事業の対象となるが、案内・告知・主旨について理解して頂ける取り組みを考えているのか。
- イ 医療費の増減に対する検証は（インフルエンザ予防接種を受けることにより、インフルエンザにかかる子どもが減り、例年のように発症した後の医療負担と比較し検証できるのか）。

(2) 子育て支援新制度について

- ・ 現在、子ども・子育て会議を設置し、来年度からスタートする、子ども・子育て支援新制度の議論がされている。条例を制定するにあたり、「国が定める基準と異なる基準を規定するほどの地域の事情も認められない」と、考え方に明記してあるが、地域のニーズや各保育園（所）、幼稚園の意見等を踏まえ、市としてどう取り組んでいくのか。

2 子どもたちの学力向上について

(1) 土曜学習モデル事業について

- ・ 先日、県教委が土曜学習モデル事業推進委員会を開催した。本市の取り組みとしては、まだ時間的に短いですが、現在の取り組みに対する検証と、今後の進め方について教育委員会としての見解を問う。

(2) 全国学力テストの公開について

- ・ 先日、滑川市における「平成26年度全国学力・学習状況調査」結果についての公表があった。
この結果を踏まえ、教育委員会として各学校・保護者・地域への公開をすることにより、どう子どもたちの学力向上につなげていくのか。

3 総合体育センターの整備について

(1) 本定例会で、空調設備設置の予算が計上された。今後のランニングコストや使用条件などを考えているのか。

(2) 前回定例会のとき、市内スポーツ施設の無料化が可決され、実施され

ている。現在の利用状況と、利用に関しての今後の対応は。

青山 幸生 議員（一般質問）

1 滑川市の教育と保育について

- (1) 放課後児童クラブについて、来年度から4年生から6年生まで受け入れとなるが、施設の床面積は児童1人あたり1.65平方メートル以上となり、現在の施設は要件をクリアしているか。
- (2) 放課後児童クラブについて、一つの支援の単位を構成する児童の数はおおむね40人以下となっている。4年生から6年生が入った場合、大幅に人数を超えると予想される施設はあるか。
- (3) 3年生から5年生までのアンケート調査が終了していると聞いたが、調査の内容はどうか。
- (4) 18時から19時まで保育時間を延長する場合の人材確保はどうか。
- (5) 現在、東部小学校と西部小学校には各2施設で運営をしているが、西部小学校の離れた2施設を西部小学校の中でまとめることはできないか。
- (6) テレビ寺子屋の視聴率推移はどうか。
- (7) テレビ寺子屋開始時から現在までの検証はどうか。
- (8) 理数教育を伸ばしたいとのことだったが、趣旨は変わっていないか。
- (9) 専門的に時間をかけた番組内容にしてはどうか。
- (10) 通級制度について、通級指導教室は情緒障害が主目的だが、通級を開始してから椅子に座る子や落ち着き、または集中力が増した実績はどうか。
- (11) 学校側から読み書き能力が低い児童を、積極的に通級へ誘ってみてはどうか。
- (12) 今年度から教員を3人体制に増やしたと聞いたが、来年度からはどうか。
- (13) 小学校3年生から35人以下の学級編成ができないが、4年生からの現

状はどうか。

2 広域消防のあり方について

- (1) 滑川・魚津・上市の各消防署において年間非番招集は何件か。
- (2) 消防署員が不足していると思うがどうか。

開田 晃江 議員（一般質問）

1 災害予防意識を高めるために

- (1) 9月1日は防災の日だが滑川市はどのように臨んだか？
- (2) 滑川市のヘリポートを蛍光塗料にできないか。
- (3) 毎年、県の操法大会に地区を交代で出場している中で、各学校で消防団の取り組み発表、梯子車の試乗体験、各消防車の展示・紹介など消防フェアを開催してはいかがか。
- (4) 魚津市の集中豪雨災害を見て、二級河川の上市川、早月川の雑木の撤去を県に依頼すべきでは。

2 児童館について

- (1) 児童館建設の進捗状況は。
- (2) 市民の誰もが待ちのぞんでいる児童館のため、庁内でプロジェクトチームを作って臨むべきでは。

3 職員の定数について

- ・ 職員定員管理計画もあると思うが、専門の業者による行政診断を行う予定はないか。

4 東福寺野自然公園周辺について

- (1) 青雲閣の耐震状況は、I S値は。今後の予定は。
- (2) CO₂削減の中でピカトラ号は、トラクターではなくバッテリーカーに移行の準備を（基金積み立てなど）。
- (3) 公園の見晴らし台がないのはとても残念、設置の予定は。

- (4) パークゴルフ場の利用者で、駐車場がとても遠いから東福寺野へ行けないとの声に、グラウンド周辺に常設の駐車場はできないか。

5 ふるさと納税について

- (1) 取り組み状況と、過去5年間の推移は。
- (2) 全国の納税者にどのようなお礼をしているか。
- (3) 県外からの納税者数は（件数、金額）。
- (4) 今後の取り組みのスタンスは。純粋な納税か、滑川市をPRするため特産品を送るか。

浦田 竹昭 議員（一般質問）

1 有害鳥獣被害の具体的対策について

- (1) 有害鳥獣（サル、クマ、イノシシ、カラス等）の農作物への被害状況と捕獲を含めた対策、並びに有害鳥獣捕獲隊の隊員確保、人材育成、資格・免許保有等の現状についての見解を問う。
- (2) 有害鳥獣被害の具体的な対策について（鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の一部改正も含めて）
 - ア 追い払い用の小道具の提供及び貸与について
 - イ 捕獲檻の増設・設置について
 - ウ 簡易電気柵の補助制度の設置について
 - エ 捕獲資格・免許取得への推奨について
 - オ 捕獲隊の担い手の育成について

2 千鳥スキー場の利活用について

- (1) 千鳥スキー場の利用状況並びに維持管理を含めた現状について
- (2) 千鳥スキー場の位置づけについての見解を問う。
 - ・ スキー場としての目的・位置づけ、財産管理、維持管理を含めた庁内の所管等、見直しについての見解は。
- (3) 千鳥スキー場の今後の利活用について、例えば太陽光発電の設置についての見解を問う。
 - ア 市単独での設置、あるいは民間への敷地貸与による誘致等についての検討は。
 - イ 現地・現状での設置可能調査の実施についての検討は。

3 人口減少対策について

- (1) 人口減少社会への危惧についての見解を問う。
- (2) 施策・企画の人口増加から人口減少への意識の転換とシフトについての見解を問う。

- (3) 人口減少対策検討委員会の設置とアクションプランの策定についての見解を問う。

4 立山黒部ジオパーク構想の対応について

- ・ 立山黒部ジオパーク構想への今後の取り組みについて、例えば、市民への啓蒙・啓発、広報掲載、勉強会の開催、ジオサイトの発掘等からの見解を問う。